

南伊豆町 & 早稲田大学 地域連携ワークショップ 2024

地域連携ワークショップとは

まちづくり、地域ブランド、移住定住、お土産、観光……自治体が抱える課題の解決策を、学生チームが提案する実践型ワークショップです。学部・学年を超えて集まった学生同士が議論しながら仮説を立て、自治体関係者や住民の方々へのヒアリングなどを通して提案につなげます。地域の魅力を知り、課題を深く考え、仲間と協働することは、成長の機会になります。

おススメのポイント！

- 南伊豆町の広報戦略を総合プロデュースでき、実際に事業化する可能性もあります！
- 町長や住民の方々に、直接お話を伺いする貴重な機会があります！
- グローバルエデュケーションセンター全学副専攻「地域連携・地域貢献」および実践型教育プログラム「地域連携実践コース」の対象プログラム（2単位相当）です（注意事項⑪要参照）。

テーマ

**南伊豆町と言えば〇〇！
～町のイメージ戦略を企画・立案しよう～**

南伊豆町は伊豆半島の最南端に位置する風光明媚な地域です。2月には早咲きの河津桜が咲き誇り、桜を眺めながら温泉につかるなど、観光を主要な産業としています。一方で、半島の先端に位置するため地理的に不便な面もあり、全国の過疎地域と同様に人口減少、少子高齢化が進み、1950年代には16,000人だった人口も現在約7,800人にまで減少しています。

南伊豆町内でも、「南伊豆町＝田舎」とマイナスイメージを持っている若者は多く、また、親世代でも子どもに「地域に残ってほしくない」「将来的には町の外に出てほしい」といった考えを持つ人が一定数います。そこで、今回のワークショップでは、若者・よそ者の視点から、町民が「南伊豆町と言えば、やっぱり〇〇！」と思える魅力を再発見するとともに、その魅力を発信していけるような仕組みを提案していただきたいです。早大生ならではの自由な発想で、そして何よりも大学生＝若者＝当事者（！）として南伊豆町に関わりたいと思える提案をお待ちしております。

南伊豆町の魅力

伊豆半島最南端に位置する南伊豆町は、太平洋を三方に望み、美しい山々を背にした風光明媚な景勝地です。日本の渚100選に選ばれている「弓ヶ浜」や、景勝地として有名な「石廊崎」、有数の湧出量を誇る「下賀茂温泉」、世界ジオパークに認定された多数のジオサイトなど魅力的な観光スポットのほか、県内有数の水揚げ高を誇る「伊勢えび」をはじめとした、海山の豊富な資源に恵まれています。また、年間の平均気温は約17度と年間を通じて温暖な土地となっています。



募集概要

募集期間	2024年11月25日（月）～12月11日（水）23：59 [期間厳守]
募集対象	早稲田大学に所属する正規学部生・大学院生（修士課程）（学部、専攻、学年問わず）
応募条件	原則として事前説明会（オンライン）への出席 および 全ての公式日程（次頁）への参加が可能なこと
募集人数	2チーム（10名程度）
応募方法	1. 事前説明会（オンライン）への出席【応募の際には参加必須】 日程：11/25（月）、12/6（金）、12/11（水）12:30～12:50（全日程） ※参加・申し込み方法等、詳細は配信メール、教育連携課 Web および Instagram でご案内しています。 ※すべての回で内容は同じです。上記3日程のうち、いずれかの回にご参加ください。 ※参加は任意となりますが、事前相談会（12:50～13:10）も上記日程で実施します。 2. 事前説明会参加後、以下の手順か右のQRコードのリンク先から応募 ① MyWASEDA にログイン ② お知らせ一覧から「地域連携ワークショップ 2024 春編」を検索 ③ 「地域連携ワークショップ 2024 春編応募フォーム」から「申請」をクリック 必要事項（志望理由、ワークショップ期間中のスケジュールなど）を入力して申請 
選考方法	書類選考：結果通知は 2024年12月25日（水）までにWasedaメール にて通知します。
注意事項	① 当ワークショップは正規授業とは扱いが異なります。成績評価・卒業単位の認定等はありません。 ② フィールドワーク（現地調査）の実施を含む対面・オンラインのハイブリッド形式で実施します。活動地は早稲田キャンパス、南伊豆町内となります。 ③ 【重要】公式日程以外にも、自主的にグループワークを実施する機会が多く、期間中は当ワークショップの活動が中心となるよう、スケジュール管理はくれぐれも注意してください。 ※公式活動日は活動時間前後の時間も余裕をもって確保してください。 ④ オンラインで活動する場合、「公共の場所では参加しない」「ヘッドセットなどを装着する」など、第三者に実習内容を知られることがないよう措置を講じてください。 ⑤ 参加にかかる費用（対面で実施する場合の交通費、フィールドワークにかかる現地までの交通費、フィールドワーク期間中の食費・宿泊費、オンラインでの活動に必要な端末の購入費、通信費など）は参加者による自己負担です。 <交通費目安> 東京駅～伊豆急下田駅片道 5,760 円（新幹線/指定席、在来線） <宿泊先> らいずや 約 6,000 円/泊 ※但し、後日南伊豆町から交通費補助（フィールドワーク・最終報告会ともに往復 8,000 円以内）、また大学より地域連携ワークショップ活動助成金があり、最終的な宿泊費・交通費の自己負担額は 10,000 円程度となる予定です。 ⑥ 【重要】当ワークショップに応募する場合、同時期に実施される企業連携ワークショップへの応募はできません。事前に各ワークショップの特色などをご確認の上、応募してください。また、同時期に実施される地域連携スタディツアーに参加する学生の応募は受け付けません。 ⑦ 当ワークショップは複数の地域（第2希望まで）に応募することができますが、最終的に参加できるのは1地域のみです。当地域を第1希望として申請し、選考を通過した場合はその時点で第2希望の地域のワークショップには参加できなくなります。 ⑧ 早稲田大学の学生補償制度（傷害補償・賠償責任補償）に加入します。 ⑨ ワークショップ実施日と重複する正規授業等を欠席した場合でも、公欠扱いとはなりません。 ⑩ このプログラムは、グローバルエデュケーションセンターの提供する全学副専攻「地域連携・地域貢献」^(注1) および実践型教育プログラム「地域連携実践コース」の対象プログラムです。 注1：<2025年3月卒業予定で副専攻修了を目指される方> 認定手続きのスケジュールの都合上、副専攻の単位相当にはなりませんので、ご注意ください。 ⑪ ワークショップでは連携先、大学がInstagram等公式 SNS を含む広報活動の目的で写真・映像を撮影します。掲載の際には個人特定されないよう十分注意いたしますが、予めご了承ください。 ⑫ 選考結果に関する問い合わせにはお答えいたしかねます。

ワークショップスケジュール（公式日程）

※授業等により、やむを得ず欠席／遅刻／早退となる可能性がある場合は、その日程と理由を応募の際にお知らせください。

	予 定		日 程	内 容
①	オリエンテーション @早稲田大学	事前調査期間 ※1	2025 年 1/8（水） 17:30～20:00	・参加者（学生／職員／自治体担当者）顔合わせ ・自治体担当者からの説明 ・自治体の課題およびテーマ設定に至った背景の説明 ・今後のスケジュール確認、事前調査の進め方などの説明
②	交流会 @早稲田大学		1/10（金） 17:30～20:00	・ミニゲームなどを通して参加学生同士の親睦を深める ・フィールドワーク前の注意事項確認 ・チーム分け発表（5人×2チーム予定） ※自治体担当者の出席はありません。
③	現地調査前 オンラインヒアリング （@Zoom）		2/4（火）、 2/5（水）	・現地調査に先立ち、仮説検証等に必要なヒアリングを行う ※実施日時はヒアリング先との調整によるため、左記の日程は予めスケジュールを空けておくようにしてください。
【※1 事前調査期間】 ○ 各チームで、南伊豆町やテーマに関する調査／情報収集を行い、テーマに対する仮説を立てる ○ ヒアリングに関する事項（ヒアリング希望先、質問内容など）を検討し、1/21（火）までに自治体へ提出 ○ 必要に応じ、大学キャンパスにてグループワークを実施				
④	現地調査期間 （フィールドワーク） @南伊豆町		2/11（火） ～2/14（金） 【3泊4日】	・南伊豆町内および該当施設などを訪問 ・町長をはじめ、町の関係者の方々へのヒアリングを実施 ・「みなみの桜となのはな祭り」への参加 【町長懇談：2/12（水）9:00～10:00 予定】
⑤	対面グループワーク （@早稲田大学）	追加調査期間 ※2	2/19（水） 10:00～17:00	・中間報告会前に学内施設でグループワーク実施 ・左記の日時の中で、実施時間帯は参加学生の都合を確認し決定
⑥	中間報告会 @早稲田大学		2/26（水） 15:00～17:00	・提案内容の中間発表 ・自治体担当者（@オンライン）が参加予定
⑦	対面グループワーク （@早稲田大学）		3/5（水） 10:00～17:00	・最終報告会に向けて学内施設でグループワーク実施 ・左記の日時の中で、実施時間帯は参加学生の都合を確認し決定
⑧	プレ報告会 @早稲田大学		3/12（水） 15:00～17:00	・最終報告会に向けたリハーサル（発表練習） ※自治体担当者の出席はありません。
【※2 追加調査期間】 ○ 中間／プレ報告会でのフィードバック等をふまえた提案の再検証およびブラッシュアップ期間 ○ 必要に応じて追加のヒアリングを実施				
⑨	最終報告会 @南伊豆町		3/17（月） 13:00～15:00	・町長など自治体関係者や地域住民の方々に向けて提案を発表 ※最終報告会終了後、学生と大学職員との振り返り会（1時間程度）を実施するため、 <u>解散時刻は16:00頃</u> となります。

※上記公式日程以外でも、必要に応じてチーム内で相談・日程調整し、自主的に活動（グループワーク・追加ヒアリング等）の上、ワークショップを進めていきます（学生同士の話し合いに大学職員や自治体関係者が参加することもあります）。

※プログラム内容等は変更が生じる場合があります。

実施の流れ

- オリエンテーション：自治体の方から課題（テーマ）やその背景を聞く
↓
 - 事前調査：
個人、チーム単位で地域やテーマについて調査。
課題に対する仮説を設定し、提案の方向性をまとめる。
どのような方にヒアリングしたいのか、どのような質問をしたいのかリスト化
↓
 - フィールドワーク・ヒアリング：
自治体関係者、地域住民へのヒアリング（対面＋オンライン）
↓
 - 最終提案資料作成：
フィールドワークやヒアリングなどを踏まえ、仮説を検証し、最終提案資料をまとめる
↓
 - 最終報告会：自治体関係者、地域住民を前にプレゼンテーション
- 学生同士で時間を決め、対面での打合せや Zoom 等で議論を進める

過去のワークショップ参加学生の声

※当地域の参加学生以外のものも含まれます。

ワークショップでの活動を振り返って

- 「学生だけじゃ何も変えられない」から「学生だから変えられる」という経験ができました。（社会科学部 1 年）
- インターネットで得られる情報は一部に過ぎず、生の声を聞いて初めてわかることがたくさんあった。（中略）また、自分のアイデアを言語化する難しさを痛感した。（文化構想学部 2 年）
- 今までにない視点を発見することができたことがもっとも大きな収穫でした。（中略）机上の空論でない地方創生とは何かを学ぶことが出来ました。なかなか大学にいても学べないことであったので貴重な経験となりました。（政治経済学部 3 年）

チームメンバーとの関わりを通して

- ひとりではなくチームで提案を構築することの素晴らしさや難しさを体験できた。（教育学部 2 年）
- 自分の長所や短所を発見することができ、意見を出すことの躊躇いがなくなりました。小さな意見や変わった意見でも言葉にすることで、新たな提案に繋がったこともあったため、発言に自信を持てるようになりました。（スポーツ科学部 2 年）
- あまり自己主張が得意ではなく、自己肯定感も低めだった自分ですが、今回の WS を通して相手の考えを尊重しながらも自分の意見を主張する大切さを学び、自分の得意なこともチームメンバーに教えてもらいました。（人間科学部 3 年）

「地域貢献」「地方創生」に対する考えの変化

- 自分が住む地域をよりよくするために、行政の方々だけでなく、ヒアリングでお伺いした多くの方々がそれぞれ熱い思いをもつて様々なことを考えていらっしゃることがとても印象的でした。今思えば、ワークショップ参加前は「地域貢献」「地方創生」といったキーワードを軽く考えていたと思います。（教育学部 1 年）
- ヒアリングを通して、「地域貢献」「地方創生」はその地域に愛着をもって創生したいと思って進んでいる方々を尊敬し、その方々が感じている魅力に寄り添っていく延長線上にあると強く意識するようになりました。（創造理工学部 1 年）

問合せ先	教務部教育連携課（ minami-izu@list.waseda.jp ） 問い合わせの際には、件名のほか所属学部／研究科、学年、氏名を必ずメール本文に含めてください。 ※教務部教育連携課は 12 月 1 日以降 Office of the Global Citizenship Center に名称変更します。
------	---